

令和4年度 稲城市立城山小学校 ESD 全体計画 (生活科・総合的な学習の時間を中心として)

日本国憲法 教育基本法 あいちなごや宣言
学習指導要領 都の教育目標 市の教育目標

児童の実態 教師の願い 地域の願いや実情

城山小学校 学校教育目標

◎すんで学ぶ子
◎思いやりのある子 ◎元気な子

五中ブロックESD重点テーマ

「関わろう、拘ろう、そして役割を見付けよう！」

将来にわたって、人と人、人と自然、人と社会の“つながり”を意識して、安全で安心な暮らしができる「持続可能な社会」を構築するために。実践・行動できる人材を育成する教育をめざす。
◀あいさつ・宿泊体験学習・地域防災等▶

テーマ 〈 城山大好き！稲城大好き！ 〉

【ESDで目指す児童像】

多くのかかわりやつながりの中で主体的に考え、その思いや願いを実現しようとする子

【城山小学校のESDの目標】

学校の教育活動全体を通じて、人格の発達や自立心、判断力、責任感などの人間性を育むとともに、人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる児童を育成する。環境教育、コミュニケーション、人権・命の教育、地域との関わり等を柱として、ESDの視点をもった課題解決学習を行い、地域を基にしながら、日本、世界に視野を広げ、持続可能な社会について考え、身近なところから行動を起こす力を育成する。

-持続可能な社会づくりの構成概念-

- I 多様性 (いろいろある)
- II 相互性 (関わり合っている)
- III 有限性 (限りがある)
- IV 公平性 (一人一人大切に)
- V 連携性 (力を合わせて)
- VI 責任性 (責任を持って)

生活科・総合的な学習の時間を中心とした取組

環境教育	国際理解教育 コミュニケーション	食育	人権・命の教育	地域との関わり
<p>地域社会の自然・環境の問題を見付け、その解決策を広い視野で多面的に考える力、自然を尊重する価値観をもち、地域社会の環境保全の担い手になろうとする態度を育てる。</p>	<p>日本の伝統や文化の理解以外にも外国の多様な文化を理解・尊重する価値観と、その価値観をもってコミュニケーションする力を育てる。</p>	<p>日本の食文化を継承しながら健全な食生活の実現に向けて行動を起こす力を育てるとともに、食を大切にすることを育てる。</p>	<p>すべての人が、生きがいをもちて生きようとしていることや互いに助け合っていることを理解し、すべての人の人権を尊重する態度を育む。また、地域の一員として障害者や高齢者等とコミュニケーションを図る力を育む。</p>	<p>人々が暮らしやすい地域社会にするための工夫や問題点を把握し、自分のことから問題に取り組む力を育て、暮らしやすいまちづくりに参画する態度を養う。</p>
<p>6年 「Let's go 野沢温泉村～SDGsの視点で考えよう～」 ③⑥ 野沢温泉村の自然や祭事、食文化に触れ体験することを通して、その価値を尊重することができる。また、体験したことを調べたことを、今後の生活に生かそうとするようにする。 【指導の工夫】すべての体験活動や調べ学習に明確な目的をもって取り組ませ、先を見通した学習ができるようにする。</p>	<p>6年・5年 「プログラミングでつながろう」 ②④⑤⑥ マイクロビットを用いた課題解決学習を通して、プログラミングの有用性や利便性に気付くとともに、他者と協力し進んでコミュニケーションをとることで、相手の立場に立った活動を考えることができるようにする。 【指導の工夫】マイクロビットを一人一つ使い、自分が主体的に解決を図ろうとさせる。</p>	<p>5年 「食べ物たんけん」 ③⑤⑦ 私たちが普段食べているお米について実際に育てる活動を通して、米のよさや価値に気付くとともに、そこに込められた生産者の思いを知り、自分の食生活を見直し、改善できるようにする。 【指導の工夫】稲の栽培では、手作業で手間のかけさせることで、その大変さや価値を実感させる。</p>	<p>4年 「バリアフリーってなあに」 ②⑤⑦ 障害者や高齢者の方々の思いや考えに関心をもつことができるようにする。点字、手話、白杖体験、車椅子サポーター体験などの活動を通して、障害者や高齢者の方々にとってより住みやすくなるために自分たちに何ができるか考え行動できるようにする。 【指導の工夫】社会福祉協議会と連携を密にし、障害者などを招へいし、体験活動を中心に行う。</p>	<p>6年 「稲城の未来を考えよう」 ②③ 稲城が多くの人にとって住みやすくなるために、インタビューなどの調査をもとに稲城の未来像を描き、企画して市長トークで市長に提言できるようにする。 【指導の工夫】子供たちだけでなく、大人や家庭、地域などにもインタビューさせ、みんなの思いや考えを集めさせる。</p>
<p>5年 「地球にやさしい学校をめざして」 ①⑤ 環境問題に着目し、調べ学習をして発表することを通して、校内や家庭に発信し、自分たちでできることについて考え、行動できるようにする。 【指導の工夫】インターネットや本など様々なツールから広い視点で環境問題を見つめ、何ができるか考えさせる。</p>	<p>4年 「SDGsを学ぼう～世界の10才～」 ③⑥ SDGsについて学び、世界の10才の子供たちがどのような環境にあるのか発表する活動を通して、外国の小学生のくらしを自分と比較し、よりよく生きようという気持ちをもつことができる。 【指導の工夫】外国について興味をもたせるとともに、外国の子供たちの生活環境と自分たちとを比較し、考えさせる活動も取り入れる。</p>	<p>1・2・3・4年 「外国語活動」 ③⑦ 日本とつながりの深い世界の国々の生活について調べることを通して、いろいろな国のあいさつや歌などに興味をもち、英語でのコミュニケーションを積極的に取ろうとする態度を育てる。 【指導の工夫】言葉や料理、スポーツなど、興味があるジャンルから、外国に焦点を向けさせることで、意欲的に取り組ませる。</p>	<p>3年 「地域安全マップを作ろう」 ①③⑤ 通学路やよく遊ぶ公園を安全・危険な視点をもって調べ、発表することを通して、安全で暮らしやすい町について理解を深め、自分でできそうなことをやってみようとするようにする。 【指導の工夫】セーフティ指導員の協力のもと、学習を進める。</p>	
<p>2年 「生きものなかよし大作せん」 ③⑤⑦ 学校の周りの自然で見つけた生き物を育てることを通じて、自然や生き物に興味をもち、大切にしようとする態度を養うようにする。 【指導の工夫】向陽台には、どんな生き物がいるのか興味をもたせるとともに、飼育での生死を通して、命の尊さを感じさせる。</p>			<p>1年 「むかしあそびをたのしもう」 ④⑥ 昔遊びに関心をもち、地域の人や高齢者に昔の遊びを教えてもらったり一緒にしたりすることで、高齢者の優しさややすらびさに気付くことができるようにする。 【指導の工夫】自分とは世代が違う人にも敬意や愛着をもって接することができるように、道徳教育と絡めて指導する。</p>	<p>2年 「もつなまよしまちたんけん」 ③⑤⑦ 学校の周辺を探検することを通して、公共施設などの役割などに気付く、暮らしやすい町の仕組みに関心をもつことができるようにする。また、そこで働く人々に関心をもつことができるようにする。 【指導の工夫】稲城中央図書館や京王線などを実際に利用することで、そのありがたさやみんなが気持ちよく利用するための工夫に気付かせる。</p>

各教科・領域

特別活動
学校行事・児童会活動

英語

道徳

-ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度- 上記単元名の右に記載

- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的・総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する力
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度